

旧呉鎮守府防空指揮所および地下壕

―基地内に残された旧海軍の遺産―

光井 周平

呉工業高等専門学校 建築学分野 准教授
(現・広島工業大学 環境学部 建築デザイン学科)

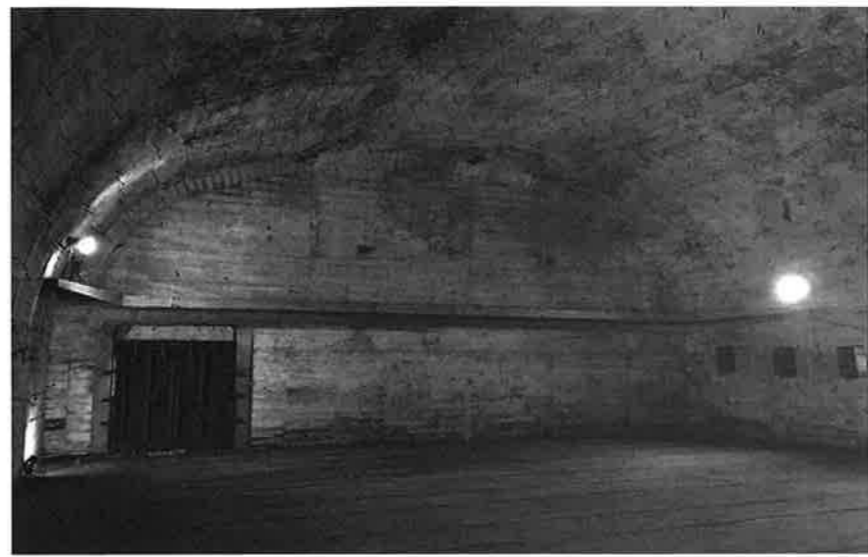


写真1 地下作戦室内部。左前方の扉は地下壕に通じる

呉市は旧海軍に縁の深い土地である。旧呉鎮守府の敷地は現在も海上自衛隊呉地方総監部として利用されている。基地内に残る1907(明治40)年に竣工した旧呉鎮守府庁舎(現在の呉地方総監部第一庁舎)は、呉における観光スポットの一つとなっている。市内にはほかに1905(明治38)年に再建された旧呉鎮守府司令長官官舎などが残されてお

り、旧海軍兵学校がおかれた近隣の江田島市を含めて、旧海軍関連の遺産が数多く残る地域である。

地下壕との出会い

そのような海軍時代からの建築物の一つである旧呉海軍下士官兵集会所(現在は「青山クラブ」と呼ばれている)は、戦後に進駐軍の施設として利用された後に長く海上自衛隊により利用されてきた。現在は呉市が購入・利用に向けて検討を進めている。市民有志による青山クラブの見学会が行われた2017年2月、当日建物の案内をしてくださった呉地方総監部の広報担当者から声をかけられたことが、筆者と今回紹介する「旧呉

鎮守府防空指揮所および地下壕」との出会いであった。

高専生による調査と「地下壕探検マップ」の作成

「基地内に残る地下壕の一般公開に先だって施設の調査をしてもらえないか?」との依頼に応じて、戦後長らく倉庫として利用されてきた施設を見学した。戦時中に海軍によって建設されたという旧呉鎮守府防空指揮所の中には、高さ6mほどの地下作戦室があり、その大空間に圧倒された。戦時中にもどのように使われていたのか、残念ながら証言以外に史料は残されていない。

このような歴史的に貴重な遺産を多くの人に知ってもらうため、学生

と相談して防空指揮所と地下壕の現状をマップにまとめることにした。自衛隊員とともに、ほくく前進をしながらの過酷な調査を実施し、2017年7月に行われた戦後初公開の際には、全国から約3200名が来場し、調査に取り組んだ学生の説明に耳を傾けた。その後、数回にわたる調査の結果を踏まえ、イラストや写真を用いたマップを作成した。

地元の中学生とも連携してクイズも掲載し、特に若い世代に興味をもってもらえるように、と学生が考えた力作である。このマップは基地の公開イベントの際などに配布している。

深まる謎と今後の調査

一連の取り組みがきっかけとなり、本施設の歴史が少しずつ明らかに

なってきた。終戦後、中四国地方に進駐したのは英連邦占領軍であったが、その主力はオーストラリア陸軍であった。占領下で旧呉鎮守府の施設も利用されていたが、本施設が電話交換所として利用されていた当時の写真がオーストラリア戦争記念館に所蔵されていることが分かった。海上自衛隊の尽力により、関連する写真を多数入手し、現在分析を進めている。

一方で、建設当時の史料は現時点で皆無である。基地内には本施設以外にも地下施設が建設されていたとの証言もある。建設の経緯がわかる史料の発見が待たれるが、戦後の混乱期に失われた可能性も高い。2019年は旧呉鎮守府が開庁してから130年という節目の年である。

地道な調査を継続しつつ、新たな史料との出会いに期待したい。
(注1)現時点で本施設の名称や用途等に関する確定的な史料は発見されていないが、本稿では便宜上、半地下構造物を「防空指揮所」、内部のかまぼこ型の空間を「地下作戦室」、それらに続く地下通路を「地下壕」と呼称する。

(担当編集委員・稲田憲武)



写真5 学生が作成した『地下壕探検マップ』



写真2 旧呉鎮守府庁舎南側にある地下壕への出入り口



写真3 地下壕調査の様子。懐中電灯を片手に暗闇を進む



写真4 2018年1月に高専生と地元の中学生との合同調査を実施

諸元

| | |
|-----|--|
| 所在地 | 広島県呉市幸町8番1号(海上自衛隊呉地方総監部構内) |
| 建設年 | 1945(昭和20)年4月頃完成 |
| 規模 | 防空指揮所:南北24.3m、東西22.7m、最大高さ7.5m(上部に土盛り約3m) 防空指揮所内地下作戦室:縦15m、横14m、最大高さ6m 地下壕:幅1m~3m、高さ1.2m~3.0m、総延長は不明 |

